

「開発班、 パーティをする」

EXTRA

文：田中裕樹
(シナリオ担当)
イラスト：肋兵器

Vol.544まで計4回の連載で届けした、ガスト×電撃PSのショートストーリー。今号は発売を記念したEXTRAをお届け。最後にはビッグサプライズもあるのでお見逃しなく！



りんごの収穫時期が終わろうとしている、ある日のことです。

「クローネ、これで大丈夫？ おかしくないかなあ」
「大丈夫ですよ。とてもよく似合っています」

エスカの着付けを済ませて、私は開発班のオフィスへと戻りました。そこには、グラスを片手に待つ開発班の面々と、得意げに腕を組んでいるウィルベルの姿がありました。ウィルベルは笑いながら、高らかに宣言します。

「ふっふっふ、準備ができたようね。
それじゃ、パンプキンパーティーを始めるわよ！」

パンプキンパーティーとは、ウィルベルの生まれた村に、古くから伝わる伝統行事だそうです。

なんでも、魔法使いの子どもにお菓子をあげた大人には、幸運が訪れるそうですが、逆にお菓子をあげないと、イタズラをされるしまうのだとか。今日はエスカの提案で、休憩時間を使って、ささやかなパンプキンパーティーを行うことになりました。私も、今日はお菓子作りの加勢です。

開始の宣言と同時に、開発班オフィスの扉が開かれます。そこにいたのは、かわいらしい魔法使いの仮装をしたエスカと、「吸血鬼」という空想上の魔物の仮装をしたロージーでした。とくにエスカの衣装は非常に凝っており、さながら本物の魔法使いのようです。

「すごいです、ウィルベルさん！
なんだかわたしも魔法使いになっちゃったみたいです！」
「そりゃそうよ。なんてたって、あたしも監修してるからねー」

あらあら。エスカも最初はあんなに自信がなさそうだったのに、

今ではすっかり魔法使いになりきってしまっていますね。
逆に、ロージーはその場に立ちつくして固まってしまっていました。

「どうして俺まで、仮装させられているんだろう。
俺はこの格好で大丈夫なのか……？」
「まあまあ、せっかくだからロージー先輩も参加しないと」

同じく魔法使いの仮装をしている乗り気なルシルに対して、ロージーは身の置き場に困ったようにウロウロしていました。

さて、パーティーが始まりました。魔法使いの格好をしたエスカは、各所を訪ねながら大人たちにお菓子をねだります。モグモグと口いっぱい頬張って、エスカはリンカの元へ向かいました。

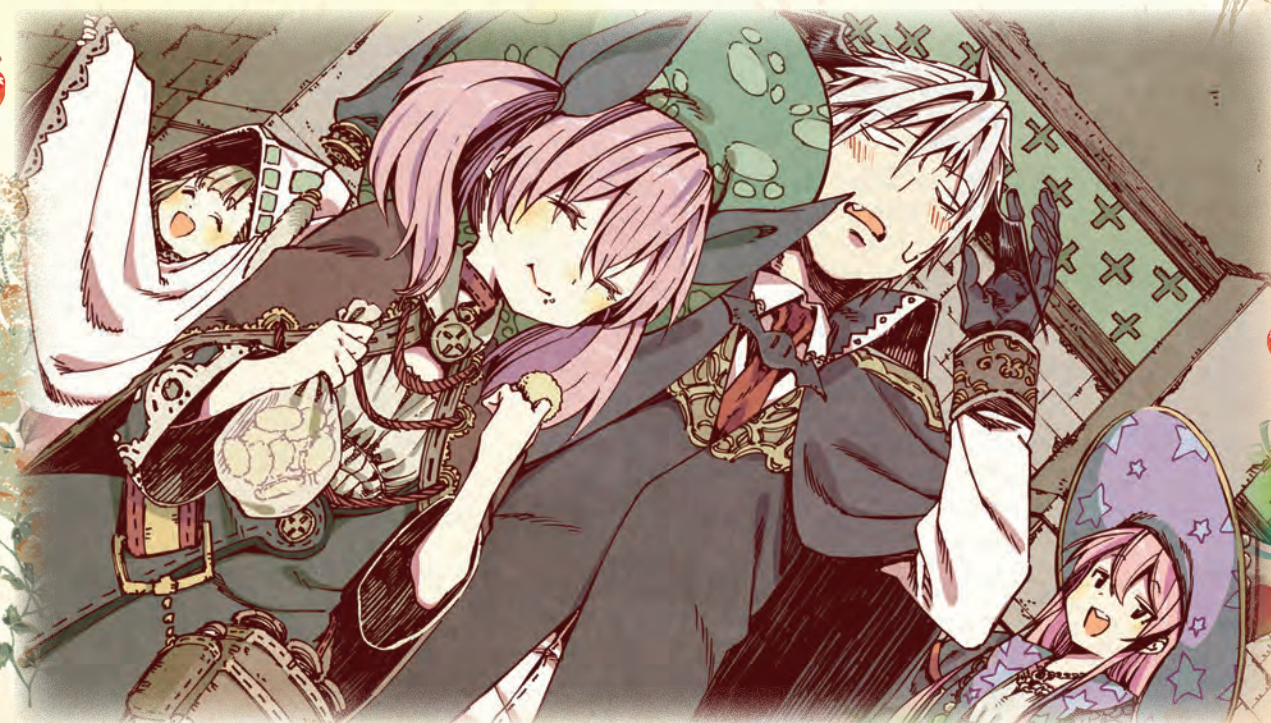
「がー！ お菓子をくれないとイタズラしますよー！」
「うう……。自分も魔法使いの役がやれたかったです……」
「えへへ。ありがとうございます、リンカさん！」

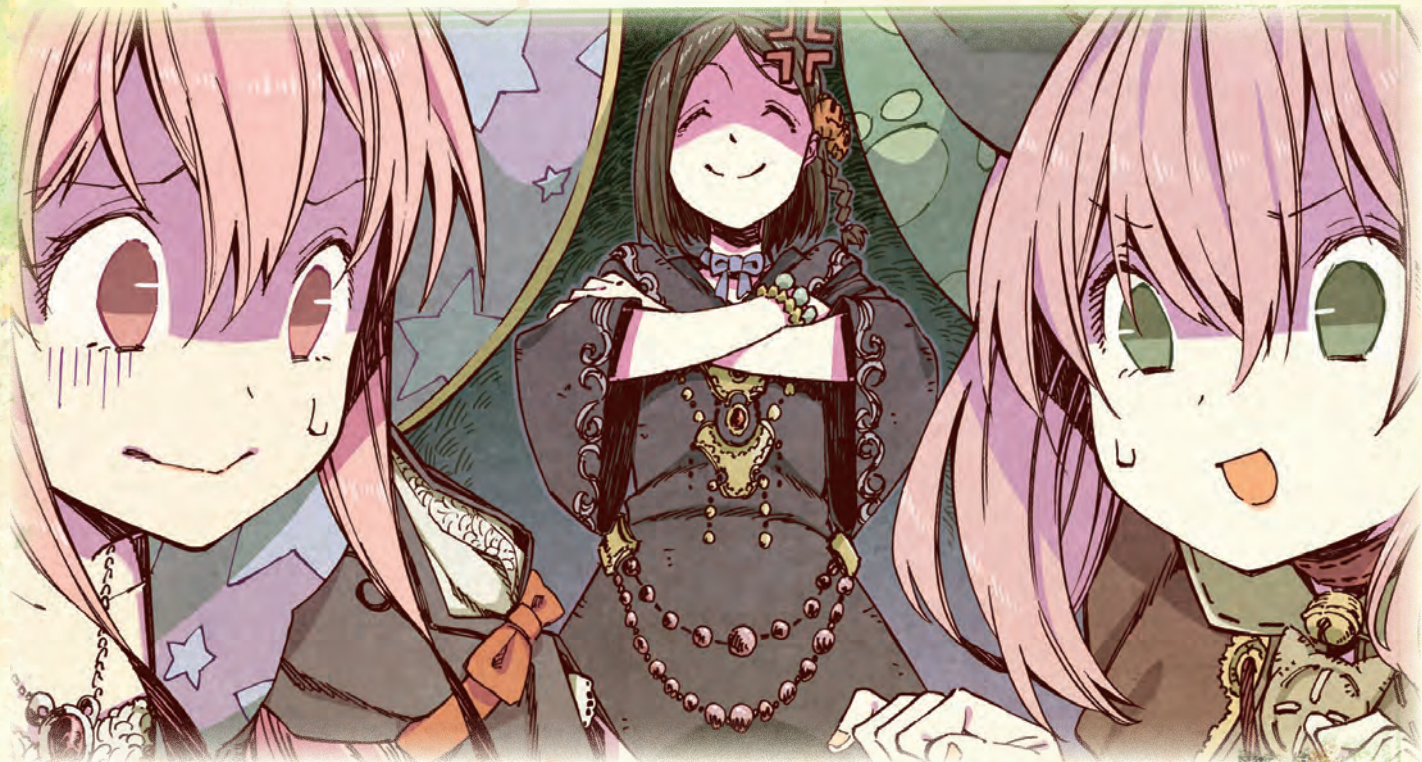
エスカにお菓子をとられてしまい、リンカはしょんぼり。子どもが主役のパーティーなので、お姉さんのリンカはお菓子をあげる側です。そんなリンカに、マリオンが優しく声をかけます。

「ほら、そんな顔しないの。私のパンプキンパイをあげるから、ね？」
「あ、ありがとうございます！ これでイタズラをせずに済みます！」

リンカはお菓子をあげる側であることを忘れていた様子。マリオンもクスクスと笑っています。一方、ロージーはルシルに両手一杯のお菓子をあげていました。

「ありがとうございます、先輩！」
「ああ、これでイタズラしないでくれよ」





あらあら。ずいぶんと優しい吸血鬼さんですね。

「でも、どうして先輩が、そんなにお菓子を持ってるんですか？」

確かに、それほど料理が得意ではないロージーにしては、手持ちのお菓子が少し豪華です。

「事情を聞いたソールさんが、お菓子を分けてくれたんだよ。まさかこんなにたくさんくれるとは思わなかったけどさ」

ロージーの手にあるのは、開発班全員ぶんはあろうかというお菓子です。もしかするとソールも、じつはちょっと気合いを入れて作ったのかもしれませんね。

「あっ。ねえねえ、エスカ。ちょっといい？」

「はい、なんれですか？」

お菓子をもらって回っていたエスカが、ウィルベルに呼び止められます。

「せっかくだし、エスカもちょっと魔法を使ってみない？ みんなを驚かせようよ」

「ええっ！ わたしにも魔法が使えるんですか？」

「やり方しだいってことよ。いい？ これをこうして——」

あらあら。何を始めようというのでしょうか。ウィルベルから作戦を聞いたらしいエスカは得意げに宣言します。

「よーし！ それじゃあ、私も魔法を使いますよ！ ……それ！」

エスカが手をかざすと、なんと、たくさんの食器が空中に浮かび始めました。

「おお、エスカも本当に魔法使いになったのですね！」

「エスカ先輩、カッコいいです！」

リンカやルシルが感動していますが、どうやらウィルベルが隠れて魔法を使っているようです。

「……？ 何してるんだ、ウィルベル」

しかし、それに気付いていない様子のロージーが、隠れているウィルベルに話しかけてしまいます。

「ちょっと、今集中してるんだから——」

集中力を切らしてしまったウィルベルは、食器をうまく浮かべることができず、とたんにすべての食器が統制を崩し、派手な音を立てて床に落ちてしまいました。

「あ、あわわ……」

「あちゃー……」

その惨状を見て、立ち尽くすエスカとウィルベル。その背後には、鬼のような形相のマリオンの姿が——

「こらー！ ちゃんと片付けなさい！」

「は、はいいいい！」

あらあら。お菓子をもらったのにイタズラをしてしまうなんて、悪い魔法使いさんたちですね。

Fin

今回のショートストーリーをもとにした**特別衣装**が
電撃PS Vol.549の付録で登場！

今回の物語でウィルベルに薦められ、魔法使い姿にドレスアップしたエスカ。その衣装でゲームをプレイできる付録が、なんと8月29日発売の電撃PS Vol.549で登場予定。詳細は追って紹介するのでどうぞご期待！

助兵器氏の
デザイン
ラフ画を公開！

